

暑さと雷と

暑さ

- 7 / 1 あとから見れば、すでに梅雨は明けていたということになるのではないかと思う今日この頃です。
- 学校では、児童はもちろん、教職員の熱中症予防も喫緊の課題です。
- まずは、暑さ指数や気温等を確認し、感覚ではなく、数値に基づいて判断することが大切です。
- 水泳学習についても、「やりたい」気持ちを優先することは、命の危険につながりかねません。
- 本日、午後の水泳学習は中止となりました。

雷

- 7 / 1 朝の天気予報で「夕方から夜にかけて」落雷の可能性との情報。
- 学校では、各種天気予報の「雷（雨雲）レーダー」が頼り。
- 1， 2 年生下校開始直後に雷鳴が轟く。
- 下校中止、一時校舎内で待機。
- 児童クラブ室等、スタッフの迎えがあり、車両等安全な移動が確認できた児童については教室で引渡し。
- 下校対応と並行して学校安心メール配信。
- 実際の天候、雷・雨雲レーダー等の情報を総合し、下校再開。
- 雷雲の発生と動きは、きわめて予測が難しいことを実感。

児童の安全を守るために

- 学校は、その時々状況により、児童の安全を第一に考え対応します。その際、児童の下校が遅くなったり、保護者等引渡しによる下校としたりする場合があります。
- 800名近くの児童を、時々状況に応じて移動、下校させる際は、混乱や行き違いをできるだけ防ぐ必要があります。
- 学校では、まず、全体への指示対応があり、その後、個別の指示対応という流れを基本として児童の安全を第一に対応します。
- 全体への指示対応が定まらないまま、個別の対応を始めてしまうことは、混乱、行き違いのもととなり、結果として児童を危険な状態に置きかねません。
- 児童クラブ室や保護者による、「引き取りたい」「帰らせてほしい」という個別の申し出について、すぐに対応しない（できない）場合があるのは、こうした理由、背景によるものです。